

研究の経過と概要

1 東山梨地区 福祉教育研究部会のとりのくみ

本地区の福祉教育研究部会は、『学校教育における福祉教育のあり方を探る』を研究主題に設定し、「福祉教育」をどのように扱い、子どもたちに何を学ばせるか、理論研究、福祉施設の見学、学習会、実践授業を通して研究を進めてきた。

福祉教育部会では、障害者や高齢者について福祉講話で話をうかがう、調べたり体験したりする、交流するなどの実践が多くおこなわれてきた。さらに、数年前より、教科や領域にとらわれず、「ともに生きる」ということを基調とし、授業実践をしている。

※ 過去の研究内容

2011年度：各校の福祉教育の実践報告

研究授業 松里小：「お年寄りとよりよい交流をしよう」 6年【総合】

玉宮小：「思いやる心を伝えよう」 3年【道徳】

施設見学 山梨市・甲州市 ハロハロー番館・二番館

2012年度：各校の福祉教育の実践報告

研究授業 松里小：「レッツ・トライ・ボランティア」 5年【総合】

後屋敷小：相手の気持ちを考えて 資料『こうえんのおにごっこ』2年【道徳】

学習会 「福祉教育にかかわる学習会」甲州市社会福祉協議会 手塚剛史さん

2013年度：各校の福祉教育の実践報告

研究授業 三富小：みんないっしょに生きている 4年【総合】

日下部小：「本当のヒーローってなあに。」 1年【道徳】

学習会 「福祉に関わる学習会（点字）」山梨市社会福祉協議会 平山純子さん

2014年度：各校の福祉教育の実践報告

研究授業 塩山北小：「ちょボラ」でみんなハッピーに！ 5年【総合】

神金小：「しょうかいゲームをしよう！」 1年【学活】

学習会 「ことばや発達に障害や特性をもつ子どもたちの豊かな人間性の育成をめざして」 講師 矢崎立美先生

2015年度：各校の福祉教育の実践報告

研究授業 神金小：自分にできるボランティアを見つけよう 3年【総合】

学習会 施設見学 甲州市 救護施設「鈴宮寮」

2016年度：各校の福祉教育の実践報告

研究授業 大藤小：相手を思いやり親切に「心と心のあく手」 4年【道徳】

学習会 施設見学 富士見支援学校

2017年度：各校の福祉教育の実践報告

研究授業 勝沼小：友だちのことを知ろう 1年【学級活動】

学習会 施設見学 創作工房くわの家

2018年度：各校の福祉教育の実践報告

研究授業 塩山南小：「共に生きる」ユニバーサルデザイン調査隊3年【総合】

学習会 施設見学 県立ろう学校

2 今年度の部会研究テーマ

「学校教育における福祉教育のあり方を探る」

3 今年度の部会研究の経過（予定も含めて）

5月 8日（水）	役員・研究テーマ・大まかな研究内容等の決定
5月22日（水）	実践事例をもとにした学習会
6月12日（水）	研究授業の授業づくり（後屋敷小：山宮）
8月 9日（金）	研究授業の授業案検討 学習会 高齢者疑似体験
8月28日（水）	統一授業研究会（後屋敷小：山宮）
9月18日（水）	福祉教育実践報告学習会（日下部小：飯沼 勝沼小：金井）
11月27日（水）	福祉教育実践報告学習会（山梨小：藤波 塩山南小：長沼）
1月 7日（水）	福祉教育実践報告学習会（大藤小：川野・堀内 奥野田小：小河）
2月 5日（水）	福祉教育実践報告学習会（松里小：高石・蘆原・中村 祝小：三森）
2月12日（水）	成果と課題・来年度に向けて

4 研究の課題

今年度も、教科の枠や「福祉教育と言えば障害者や高齢者理解」という考え方にとらわれず、さまざまな立場の人々と「ともに生きる」思いやりあふれる子どもたちを育成することを基調として研究を進めている。これまでの研究会の中で確認されている課題は、以下の通りである。

- ①福祉講話や体験・交流などを単発で終わらせず、そこで学習した考え方や生き方を、日常生活でも生かしていけるような実践づくりを考えていきたい。
- ②「福祉」のとらえ方について、「ともに生きる」「みんなのしあわせ」のために支え合うという意識を子どもたちがもてるような実践づくりを考えていきたい。
- ③立場の違いはあっても、自他の幸せを願って努力したり夢を追ったりすることは同じである、という意識を子どもたちがもてるような実践づくりを考えていきたい。

これらの点をふまえ、研究部会に所属している部員のそれぞれの学校や個人の実践を参考に授業案づくりがおこなわれ、共通理解のもとで意見交換がなされてきている。

5 研究の仲間

◇指導助言者

望月俊孝（後屋敷小）

◇部会員

山宮由紀 天野友理 廣瀬桃花（後屋敷小）

小河真由美（奥野田小） 堀内美紀 川野和昭（大藤小）

三森敏彦（祝小） 金井京子 橋本未来（勝沼小）

長沼 薫（塩山南小） 藤波 貴（山梨小）

飯沼順子（日下部小） 高石圭子 中村悦子 蘆原美海（松里小）

第3学年2組 道徳科学習指導案

日 時 令和元年 8 月 28 日 (水) 14:00～14:45
場 所 後屋敷小学校 3 年 2 組 教室
対象学級 第 3 学年 2 組 2 3 名
指 導 者 山宮 由紀

- 1 主題名 温かい心を大切に 2 - (2) 思いやり・親切
- 2 教材名 「一さつのおくりもの」 (出典: 森山京・作 鴨下潤・絵)
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

人と人のかかわりによって成り立つ社会において、私たちがよりよい人間関係を築いていくためには、自分のことばかりを考えたり、自分の思いだけを主張したりせず、お互いが相手に対して思いやりの心を持って接することが大切である。思いやりの心は、相手が置かれている状況を理解し、気持ちを推し量ることから生まれ、人間関係を温かいものにしてくれる。自己中心的な言動をとる傾向にある子どもたちにとっては、相手を思いやり、親切にする心を培うことがより重要だと考える。人に親切にするには、まず、相手に対する温かい心をもつことが大切であることを感じ取らせたい。

(2) 児童の実態について

クラス替えがあり、最初は、仲良しの友だちと離れてさみしそうにしていたり、休み時間は、昨年度のクラスの友だちと遊ぶことが多かったりした。少しずつ、声を掛け合い新しい友だちを増やすことができるようになってきた。

普段の生活の中では、泣いている友だちがいると心配し声をかけたり、バケツの水をこぼした時や給食を落とした時など、すぐにかけて助けてあげたりする姿が見られる。

道徳の「楽しい学級や学校をつくろう」の学習で、「どんなクラスにしたいか」と聞いたところ、「思いやりのあるクラス」「一人一人がちゃんとするクラス」「楽しいクラス」「笑顔いっぱいクラス」といった答えが返ってきた。どの子どもも温かい雰囲気求めていて、親切にすることの大切さは分かっている。しかし、自分のことに夢中になってしまい、相手のことを思いやれなかったり、自分の思いを通そうとしたりすることがある。本時では、やさしさあふれる資料を通して、親切にすることのよさや難しさについての考えを深めていく。主人公に自分を重ねさせながら、相手のことを思いやり進んで親切にすることの大切さ、気持ちよさを考えさせたい。

(3) 資料について

主人公のクマタは、絵本「かいがらのおくりもの」が大のお気に入り。毎日欠かさずこの本を読み、本の中のキツネに語りかけている。しかし、その大好きな絵本を手放すことになる。大水害があった山向こうの村の子どもたちを見舞うため、クマタは悩みに悩んで、大好きな絵本を送ることに決めたのだ。

クマタが悩みに悩んだ末その大好きな本を遠くで困っている人のために送ったことで、相手を思って親切にすることの温かさが伝わってくる。

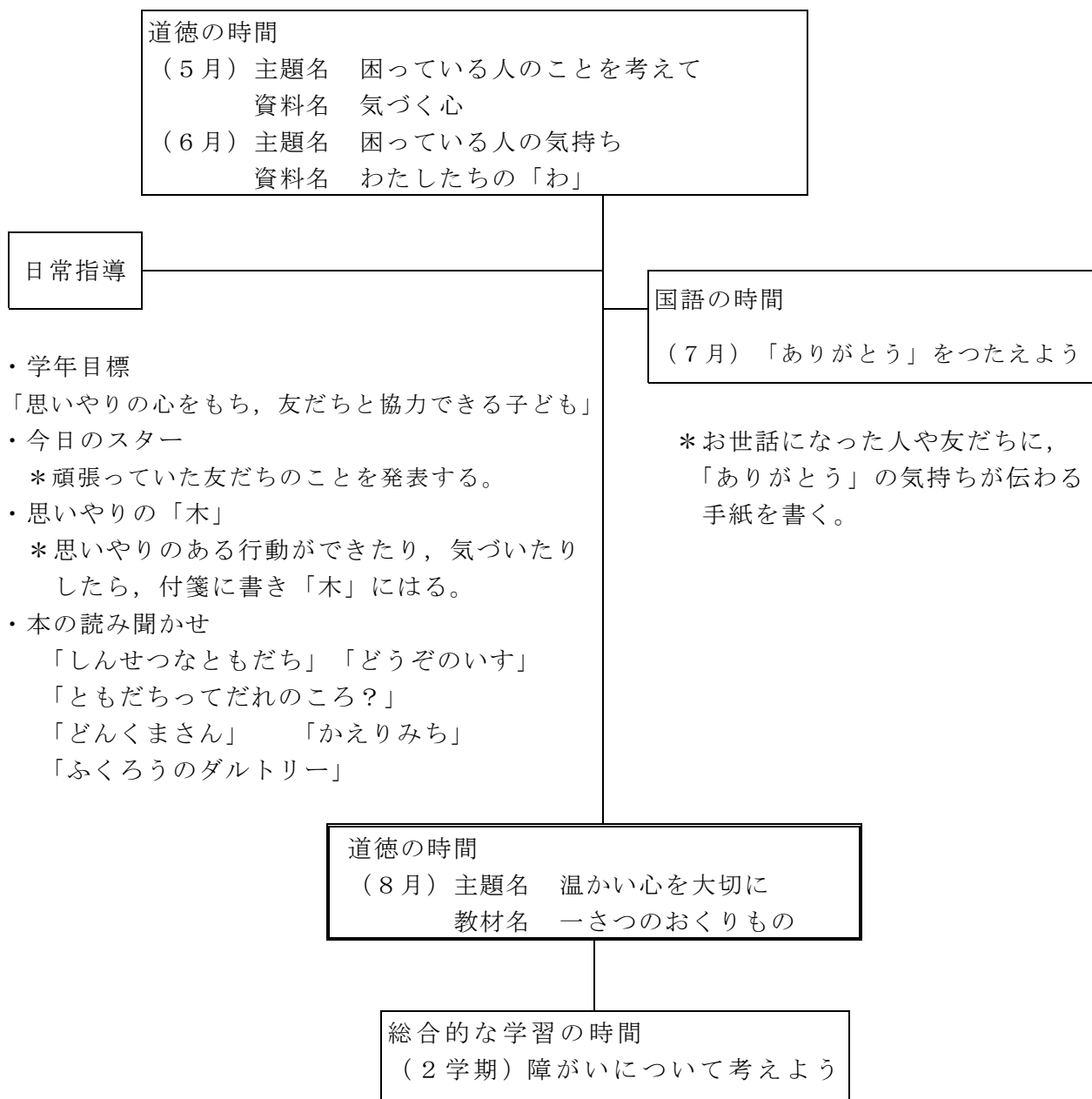
中心発問につなげるために、クマタにとっていかに絵本が大切な物なのか、絵本のキツネの行いに対してどんな思いをもっているかを考えさせる。

中心発問では、クマタが大切にしてきた絵本をふかみどり村の子どもたちに送るかどうかが悩んでいる場面のクマタの気持ちを考えさせる。ここは、相手の助けになりたい・喜んでほしいという思いや、やはり自分の大切な物はあげられないという思いなどで心が揺れ動く場面である。二つの思いを対話させながら児童の多様な考えを引き出したい。

後半では、自分の生活をふり返り、友達や周りの人に親切にしてよかったことを思い出
し、親切の輪をさらに広げさせたい。

最後に、その本を受け取ったウサギからクマタに届いた手紙を紹介し、親切や思いやり
が伝わった時の気持ちよさを実感させたい。

4 各教科その他の教育活動との関連



5 福祉教育との関連

福祉教育の中に心情の育成を図ることがあげられる。心情の育成つまり、福祉の心をはぐくむとは、自分のことも周りの人も大切にできるということである。そのためには、思いやりの心や助け合い協力する心を育てる必要がある。「一さつのおくりもの」の絵本を資料教材にして、相手のことを思い親切にすること、今までの自分をふり返り、親切にしてよかったことを思い出させ、親切の輪が広がるようにさせたい。

6 本時の学習

- (1) 日 時 令和元年8月28日(水) 5校時 14:00~14:45
 (2) 場 所 後屋敷小学校 3年2組教室
 (3) ねらい 相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする心情を育てる。
 (4) 展開

	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点 ☆評価
導 入	1 宝物は何か発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族 ・ ゲーム ・ おもちゃ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宝物はとても大切な物であるということを確認する。
展 開	<p>2 「一さつのおくりもの」の絵本の話聞く。 * P 1 ~ P 1 0</p> <p>3 主人公クマタの気持ちを中心に話し合う。</p> <p>○クマタにとって「かいらのおくりもの」とはどんな本なんだろう。</p> <p>◎クマタはひとばん、どんなことを考えていたのだろう</p> <p>○考えたことを発表しよう。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>登場人物：主人公・・・クマタ 内容：クマタは、絵本「かいらのおくりもの」が大のお気に入り。毎日欠かさずこの本を読み、本の中のキツネに語りかけている。でも、その絵本とお別れしなければならぬ出来事が起こる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ぼくの大切な本。宝物。 ・ とても大事。 ・ いつも読んでいる大好きな話。 ・ 心が優しくなる。 <p>「かいらのおくりもの」をおくってあげよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 困っている人を助けたい。 ・ ふかみどり村の子に喜んでもらいたい。 ・ キツネ君のようにになりたい。 <p>どうしよう</p> <p>「かいらのおくりもの」はおくってあげたくないな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ぼくの一番大切な本だから。 ・ 毎日読めなくなるから。 ・ キツネの子に会えなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本を大切に思う気持ちや、キツネに対する思いを考えさせる。 ・ ふかみどり村の人のために何かしたいという思いはあっても、悩んでいるクマタの心情を考えさせる。 ・ “あげる？あげない？どうしよう”と迷っている心の内を一人一人しっかり考えさせる。 ・ ペアになり、「あげる・あげない」の理由を伝え二つの思いで揺れるクマタの考えを深める。 <p>☆相手を思いやり、親切にしようとするということについて考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 両方の意見を出させ、色々な考えにふれさせる。


	<p>○「かいがらのおくりもの」をおくってあげようと思ったのはどんな心をもっていたからだろう。</p> <p>4 自分の生活をふり返る。 ○親切にできた自分やできなかった自分を思い出そう。</p> <p>5 自分たちの生活の様子を交流する。 ○友達の考えを読み合い、自分の行動と比べよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりの心。 ・やさしい心。 ・親切な心。 ・温かい心。 <ul style="list-style-type: none"> ・ブランコに乗っているとき、1年生が来たので譲ってあげた。 ・友達が転んでケガをしたので一緒に保健室について行った。 ・友達がのりを忘れたけど貸してあげなかった。 <ul style="list-style-type: none"> ・みんな思いやりの行動ができていいるな。 ・わたしにはできなことをやっているな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の続き（P11）を読み、クマタがどうすることにしたかを伝える。 ・自分のことより、相手のことを考え、思いを向けていることに気づかせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・友達や周りの人に、親切にできているかできていないか思い出させる。 ・これまでの自分の生活を見つめ、ワークシートに書かせる。 <p>☆これまでの自分の生活を振り返っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の書いたワークシートを見て、自分の行動と比べさせる。 <p>「ギャラリーウォーク」 *ワークシートに書いてあることを自由に読み合い共感できることなどにシールをはらせる。</p>
終末	6 クマタがもらった手紙を紹介する。	・手紙をもらうって嬉しいな。	・ササエからの手紙（P12）を紹介する。

7 板書計画

第十三回
題名 「さいつのおくりもの」

クマタ 「かいがらのおくりもの」

◎クマタはどんなことを考えたのだろうか




雨がふりつづいて
ふかみどり村

あげる

あげない

あげない

あげない



あげること決めた
自分の生活をふり返ろう

8 評価の観点

☆主人公に共感し、自分との関わりで相手を思いやり進んで親切にしようとすることについて考えることができたか。

☆進んで親切にできた自分やできなかった自分を振り返ることができたか。

9 資料の内容 絵本「一さつのおくりもの」の一部を資料として扱う。

*「かいがらのおくりもの」は事前に読み聞かせをする。

P2 「かいがらのおくりもの」はクマタのお気に入りの絵本です。

P3 クマタは、「かいがらのおくりもの」を読むたびに、このお話がいつそう好きになります。クマタは、絵本のキツネの子に、そっと話しかけます。

「キツネちゃん。きみは、えらいね。ぼくだったら、いくらなかよしでも、一番好きなものをあげたりはできないよ。」

P4 それからいく日かして、思いがけないことがおきました。

三日三晩もの間、大雨が降り続いたのです。

さいわいクマタの住む「ひなた町」では、たいした騒ぎもなかったのですが、山の向こうの「ふかみどり村」では、川の水があふれだし、村のあちこちが水びたしになって、学校で寝泊まりしている子どももいました。

P5 間もなくして、たくさんの大人達が、「ふかみどり村」へ出かけることになりました。水が引いたあとの片づけを手伝うのです。クマタ達も、何かしてあげたくて、ノートや鉛筆を届けてもらうことにしました。すると友だちが「本も送ろう」といいだしました。

P6・7 クマタは、自分の絵本の中から一冊を選ぶことにしました。でも「かいがらのおくりもの」だけは選ぶつもりはありませんでした。

P8 ところがよく見ると、他の絵本には小さなきずや、よごれがあるのに気がつきました。それが無いのは、「かいがらのおくりもの」だけなのです。

P9・10 クマタは困り果てて、お母さんに相談しました。お母さんの答えは、こうでした。「それは、クマタが自分で決めることですよ」

そのとおりだと、クマタも思いました。

P11 クマタは、よくよく考えて、「かいがらのおくりもの」を送ることに決めました。それまで毎日のように、顔を合わせていたキツネの子は、とつぜんクマタの前から姿をけしてしまったのです。

P12 *ウサギ・ササエからの手紙を読む。

こんにちは。わたしは、ふかみどり村小学校三年生のウサギ・ササエです。きのうは、わたしの誕生日でした。この間の大雨で、家が水浸しになってしまったので今年は花束もプレゼントもあきらめていました。そうしたら、校長先生が「ひなた町のお友達からです。」と行って、本や文房具を渡してくれました。わたしがもらったのは、絵本の「かいがらのおくりもの」でした。わたしは、早速読んでみました。一度読んだだけで、お話も絵も大好きになりました。こんなステキな絵本、もしかしてクマタさんも大好きだったのではありませんか。きっとクマタさんは、お話の中のキツネの子のように優しいのだろうなと思いました。わたしは、この絵本を声に出して、なんべんも読みました。おかげで、すばらしい誕生日になりました。本当にありがとうございます。どうかげんきでいてください。

ウサギ・ササエ

クマ・クマタさま

10 授業後の研究会

(1) 授業者より

- ・資料理解のために、事前に「かいがらのおくりもの」を2回読んでおいたため、主発問に対して、考えるヒントにもなり、全員がワークシートに自分の考えを書くことができていた。
- ・これまでの自分の生活を振り返る場面では、「あげる・あげない」の話し合いが中心になっていたためか、何かをあげた経験を思い出そうという児童が多く、なかなかワークシートに書けなかった。何か具体例をあげるなど発問に工夫が必要だった。

(2) 研究討議より

- ・導入部分で宝物は何かと聞くことで、意図する反応があり、宝物は大切であるという確認ができた。大型テレビで資料を提示することで、視覚的にも分かりやすく、児童は集中して話を聞くことができた。
- ・挙手させて発表する場面と、自由に発言する場面とあり、盛りだくさんの内容であったが、時間的にちょうどよく授業を展開することができた。
- ・「あげる・あげない」では、「かいがらのおくりもの」のキツネの子に触れながら書いている児童もいて、色々な理由が発表されていた。
- ・「あげる・あげない」の発表を交互にさせることで、揺れ動く気持ちがよく表れていた。
- ・「あげる・あげない」の二択だったが、どちらかに決められないという選択肢があってもよかったのではないか。ただ、「あげない」の方に、どちらかに決められないという迷いが書けている子もいた。
- ・これまでの自分を振り返る場面で書けなかった児童は、ギャラリーウォークで友達の意見から感じることをできたらそれでいいのではないだろうか。また、ギャラリーウォークの後、もう一度書く時間をあげると、どんなことを書けばよいか分かりもう少し多くの児童が書けたかもしれない。
- ・「あげる・あげない」という行動面と、困っている人に対してできる最大限の気持ち、相手の立場などの心情面とをもっと結び付けて考えさせたらよかった。
- ・終末では、クマタがもらった手紙を読むことで、しっとりと温かい気持ちになって終わることができた。

(3) 指導・助言

- ・色々な工夫（大型テレビ・時計・シール・手紙など）があり、児童を授業に引きつけることができた。
- ・ペア学習・ギャラリーウォークなど学習形態にも工夫が見られ、活動の支援につながった。
- ・相手のことを思いやるというねらいは意識できていた。
- ・導入部分で宝物は何か聞いていたが、今日は思いやりについて考えるというねらいがあるので、そちらからの切り口でもよかったかもしれない。
- ・「あげる・あげない」の揺れる気持ちを、自分だったらどうするか考えさせ、話し合わせても良かった。行動面だけでなく、親切にするとはどういうことなのか心情面にもう少し迫っていたら良かった。
- ・福祉教育を道徳科で行うことで、難しさもあり、3年生でどのくらい議論させることができるか今後の課題である。

1.2 授業の様子



資料は、パワーポイントを使って挿絵を見せながら読んで聞かせた。大型テレビに映し出したので、見やすく子どもたちも集中して聞くことができ、話の内容もしっかり理解できていた。

ペアになり、「あげる・あげない」の理由を伝え合い、二つの思いで揺れるクマタの気持ちについて考えを深めることができた。



ギャラリーウォークで、友達の意見を自由に読み合い、共感できる意見などにシールをはった。なかなかワークシートに書けなかった児童も友達のワークシートを見て、自分のことに置き換えて考えることができた。

1.3 まとめ

自分がクマタなら大切な絵本を「あげる」か「あげない」か考えさせる中で、困っている人に何かしてあげたいという子どもたちの気持ちがうかがえた。資料の中のクマタが、絵本を「あげた」ということを聞き、相手のことを考えての行動（思いやりの心・親切な心）だと気づくことができた。「あげない」という考えはいけないと捉えさせるのではなく、困っている人がいたら何か行動しようという考えが持てることが大切であると考える。思いやりの心や助け合い協力する心を今後も育てていきたい。

1.4 今後の活動

総合的な学習の時間の「障がいについて考えよう」の学習で、アイマスク体験や車いす体験を行い、相手の立場や置かれている状況を理解し、自分たちにできることは何か考えていく。また、自分が車いすに乗ったり、押されたりする中で、助けたり助けられたりという関係で成り立っている思いやりの心について考えさせていく。

11月には、本校3年生を対象に、オリンピック・パラリンピックについて学ぶ会を開催し、山梨市アンバサダーの鈴木徹氏を迎え、義足体験や走り高跳びのデモンストラクションなどの内容で、障害者スポーツへの理解を深める